

高齢者の孤独死は年200人 孤立化なくす責任ある対策を



10月13日市議会決算特で質疑に立つ熊谷市議


日本共産党の熊谷あつ子市議は、10月13日、市議会決算特別委員会総会で質疑を行い、年200人もの孤独死がでている問題をとりあげ、高齢者の孤立化を防ぐ4つの提案をしました。

① 民生委員の負担軽減などを

民生委員は高齢者の実情をつかみ、支援につなげる大事な役目。ところが過重負担になっているとの声が現場から…。たとえば「すこやか赤ちゃん訪問事業」。赤ちゃんがいる家庭を訪問し、相談や情報提供をする重要な事業です。他市では保健師や助産師などがしているのに、政令市で福岡市だけが民生委員に全戸訪問させています。熊谷市議が負担軽減や増員などを求めると、市も「負担軽減につとめる」と答えました。



② 低所得者も介護施設に入れるように



高齢者の生活を地域で支える小規模多機能施設を生かす。市議が市の認識をただしました。市は「負担が重いと活保護受給者が利用しようとしても、食費や宿泊費が負担が重くて実際は利用できない問題について、熊谷市議が市の補助を求めると、「必要な措置を講じる」と答弁しました。

③ いきいきセンターの増員・増設を

④ 敬老無料パス復活を

この他、熊谷市議は、高齢者の孤立をふせぐため、地域の高齢者の相談にのる「地域包括支援センター（いきいきセンター）」の増員や増設をはかることや、高齢者の社会参加をうながしてきた敬老無料パスの復活を提案しました。

重度心身障害者 福祉手当なくすな

市の事業仕分けで見直しとされた重度心身障害者福祉手当について、熊谷市議は、市側が障害者に送ったアンケートの選択肢が手当の廃止を迫る恣意的なものになっていると追及。高島市長はアンケートについて「ていねいにやってる」と驚くべき認識を示すと同時に、存続の要求に対しても「審議会の答申をふまえて検討する」と答えるのみでした。

他に、熊谷市議は、金武小学校など学校施設の改善、市立幼稚園のエアコン設置などについて質問しました。